

令和3年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>① 専門教育を深化させるとともに、農・商併設のメリットを生かし、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりをチームとして推進する。</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を深め地域の教育力を生かした教育活動を展開する。</p> <p>③ 教職員研修の充実を図ることにより教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>④ 教職員が高い倫理観と使命感を持って業務にあたるとともに、業務の効率化に努めワーク・ライフ・バランスを図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 地域や社会に対応できる特色ある学校づくりの推進事業をチームとして推進</p> <p>② 「エンカル消費」の取組の推進</p> <p>③ 各教員が研修をとおして資質の向上</p> <p>④ 情報セキュリティポリシー遵守の徹底と出退勤管理システムの活用によるワーク・ライフ・バランスの適正化</p> <p>⑤ マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信</p> <p>⑥ 働き方改革の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川を定期的に開催する。 5回以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。 年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行う。 年間6回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。 ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p> <p>⑥ 「働きやすい職場環境づくり」や「業務の効率化」を目指し、ICT環境を活用する。 ICT環境の活用のための研修会 3回以上</p> <p>活動計画</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知する。</p> <p>② 「エンカル消費」の取組の推進</p> <p>②-1 「エンカルクラブ」を中心として、校内外での発表の機会を設けることにより普及・啓発に努め「エンカル消費」の推進を図る。 2回以上</p> <p>②-2 「エンカルクラブ」を中心として、「エンカルグッズ」の配布を行う。 5回以上</p> <p>③ 研究授業の参観及び研究協議を実施し、授業力向上を図る。 6回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図る。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図る。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用する。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。</p> <p>⑥ 生徒に向き合う時間を創出し、教育の質の向上に務める。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① アグリ吉野川(含む鴨島駅前商店街)の開催回数 10回</p> <p>② 吉野川市伝統文化「菊づくり」や「かもじま商店街にぎわいづくり」など継続実施 31回</p> <p>③ 年間を通して学校訪問や研究授業を実施 7回</p> <p>④-1 情報資産の取扱については、持ち出し管理シートに持ち出す日付を記入するとともに押印し、返却後、日付を記入し、管理職が確認している。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関するウイルスチェック 6回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックしている。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 60回</p> <p>⑥ ICT環境の活用のための研修会 6回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① アグリ吉野川の実施する日時の入ったチラシの配布やホームページを通して地域住民の方々に周知した。 ホームページ掲載 5回 チラシ配布 5回</p> <p>②-1 「エンカル消費」を推進するため、ハブラシリアル活動や林業センターでの研修に参加した。 2回</p> <p>③-2 「エンカルグッズ」の配布は行わず、「エンカルクラブ」の生徒を中心に、啓発活動を行った。 9回</p> <p>③ 「公開授業週間」を実施し、授業の参観及び協議を実施した。 1回</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図っている。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図っている。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用している。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図っている。</p> <p>⑥ 働き方改革に関する意識を共有するとともに、計画的な休暇の取得を推奨している。</p>	<p>評定</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度もアグリ吉野川の利用者数は、コロナ禍の影響から来客数が減少することを予想していたものの、リピーターの増加やPRの効果もあり、多くの客数を集めた。スクールカフェ吉野川は、本年度も教職員を対象としたプレカフェと健康会と連携した福祉施設利用者の一部を対象としたカフェを実施したものの、一般に向けた本開催はできなかった。 地域や行政との連携においては、エンカルクラブの活動や「かもじま商店街にぎわいづくり」に加え、吉野川市伝統文化「菊づくり」を継続的にを行い、実施回数の向上につながった。 学校訪問や研究授業の実施については、計画的・継続的に実施し、本校の教育活動の質の向上を図ることができた。 ICTの活用に関しては、校務処理ならびに広報活動の効率化を図れるよう積極的に進めた。GIGAスクール構想と連動し教育の質の向上と働き方改革の推進にもつなげるよう活用している。 働き方改革においては、実現に向け業務内容の見直しや進め方の効率化についての検討を進めた。着実な推進のためには教職員における更なる意識の変革が必要である。 	<p>○ コロナ禍で一昨年とは違い地域関連の行事の制限もあつたと思う。生徒は人との関わり方でできた、できていないことを学ぶのではないかな。</p> <p>○ タブレットの活用は良かった。生徒はどれほど使いこなしているのか。授業形態の変化。ICT活用の進捗等も知りたいが、生徒には役立つことが多かったと思われる。</p> <p>○ ウェブ会議などで出張の時間を短縮でき、その時間を生徒に使うことができたのではないかな。</p> <p>○ コロナ禍の今、様々な効率化が求められている。配布物はPDFにしてメール。仕事の効率化を重視。働き方改革の定量化(物事を数値で表す)。生徒のために不必要だと考えられるものは省くべきだと考える。</p> <p>○ 地域の方にイベントなどへ参加してもらおう。農業で面白いことをやっている人に話してもらおう。興味を持ってもらえるような内容を企画すれば、良い出会いを広げていけるのではなか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鴨島駅前にぎわいづくりやスクールカフェ吉野川を継続し、次年度においてもPR活動や早めのチラシの配布などを行い更なる集客数の増加をめざしたい。 教育活動における一人一台端末であるタブレットの活用をさらに押し進めるとともに、ICTを積極的に活用した教育のあり方や効果的な活用方法について研究したい。 Webページの活用については、単に更新回数だけでなく、中身について改善し持続が可能な情報提供の運用方法についても検討したい。 働き方改革については、ICTの活用による業務の効率化を含め、教職員一人一人に働き方改革の趣旨を理解してもらえ様に努めていきたい。 学校WebページやSNSの活用などによるニュースリリースについて、積極的に取り組んでいきたい。 体験型のイベントの実施を検討したい。
		<p>【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成</p>					

	<p>② 各種資格取得の奨励と補習体制構築による合格率の向上</p> <p>③ 授業改善の推進</p> <p>④ 公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動，学校行事等の実施</p> <p>⑤ 各教科の授業やホームルーム活動，学校行事等の実施</p>	<p>①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて取組の検証を行う。</p> <p>①-4 図書館だよりを発行したり，図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで，図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図る。</p> <p>② 資格試験の実施に関して，生徒への周知を徹底する。また，取得率向上に向けて，補習体制を強化する。</p> <p>③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施し授業改善の機会とする。</p> <p>③-2 研究授業を実施し，研究協議を通して授業改善を図る。</p> <p>③-3 公開授業週間後に，教科会等を開き情報交換，情報共有を図る。</p> <p>③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図る。</p> <p>③-5 タブレットの導入に伴い，様々なツールを用いることで生徒の興味・関心を促し，基礎学力の向上を図る。PDCAサイクルに基づいた取り組みを行い，積極的かつ効果的に活用する。</p> <p>④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施する。</p> <p>④-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。</p> <p>⑤-1 事業計画書に基づいて実施する。</p> <p>⑤-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。</p>	<p>①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて，取組の検証を実施した。</p> <p>①-4 図書館だよりを発行したり，図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで，図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図った。</p> <p>②-1 資格試験の実施に関して，生徒への周知を徹底している。また，取得率向上に向けて補習を実施した。</p> <p>③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施した。</p> <p>③-2 研究授業を実施し，研究協議を通して授業改善を図った。</p> <p>③-3 公開授業週間後に，教科会等を開き情報交換，情報共有を図った。</p> <p>③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図った。</p> <p>③-5 各教科でタブレットを効果的に使用し，生徒の興味・関心を促した。より良い授業作りのために，PDCAサイクルに基づいた取り組みを行った。</p> <p>④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施した。</p> <p>④-2 生徒を対象としたアンケートを実施した。</p> <p>⑤-1 事業計画書に基づいて実施した。</p> <p>⑤-2 生徒を対象としたアンケートを12月に実施・集計した。</p>	<p>電子黒板を使う授業では準備時間が余分に必要となることがあるため，教員の余裕がなくなる。アンケートの結果は非常に高い数値であり，電子黒板やタブレットの効果的な使用が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修の一環で，2名の新任教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・ 昨年まで実施していた吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会選挙の選挙は，密を避けるために今年も実施できなかった。 ・ 7月に3年生を対象として，主権者教育の出前講座を実施することだけでなく，立憲主義の大切さや模擬演説会を実施する者意識の向上に大いに役立った。 		
--	---	---	--	---	--	--

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	学校関係者の意見		
3 生徒指導の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>① 基本的な生活習慣の確立を図り、身だしなみを整え、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。</p> <p>② 教職員の共通理解のもと、保護者や地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。</p> <p>③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 日常的生活指導による基本的な生活習慣の確立</p> <p>② 保護者、地域社会、関係機関との連携</p> <p>③ 教職員間での情報の共有化及び連携強化</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校内外巡視の実施 100%</p> <p>①-3 頭髪服装指導時における違反率 各学年4%以下</p> <p>①-4 遅刻指導の徹底遅刻率 1.3%以下</p> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時</p> <p>②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時</p> <p>③-1 学年別の情報交換会実施 每学期1回</p> <p>③-2 いじめのアンケートの実施 年3回</p> <p>③-3 いじめ行為等の事案が発生した時には速やかに委員会を開き適切に対応する。 随時</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校内外巡視の実施 100%</p> <p>①-3 頭髪服装指導時における違反率 1%</p> <p>学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒服装頭髪 92.6% 教職員服装頭髪 87.0% 保護者服装頭髪 86.8% <p>①-4 遅刻指導の徹底 遅刻率 2.23%</p> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時</p> <p>②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時</p> <p>③-1 学年別の情報交換会実施 每学期1回実施</p> <p>③-2 いじめのアンケートの実施 3回</p> <p>③-3 随時実施中</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本来対面で行われるべき、生徒指導関係の行事が中止やリモート形式での実施になってしまった。また、生活面で改善が必要な生徒の保護者に来校して頂き、改善に向けての意見交換等も十分に行うことができなかった。そのため、遅刻数や頭髪服装の内規違反を何度も繰り返す生徒が見られ、その結果、遅刻率では目標とする評価指標をクリアできなかった。 学校評価に関するアンケート結果においては、生徒の92.6%が「身だしなみはきちんとできている」と答える一方、教職員は87.0%、保護者が86.8%と低く、教職員や保護者が求めるレベルまでには至らなかった。 遅刻率に関して2.23%と、目標を達成できなかった。その原因としては、特定の数人が何度も遅刻を繰り返すことが主で、3クラスが4%を超え、全体の数字を大きく引き上げた。その一方1%に満たないクラスも4クラスあるなどクラスによる違いが大きかったように思われる。また、1学期平均は1.45%であったが、2学期は2.7%になるなど、進路が決定した3年生の生活リズムの乱れが傾向として見受けられた。 	<p>○ コロナ禍の2年間、空間を共有することを禁止され、リモート中心の学校生活となり、生徒とのコミュニケーションも取りにくいのではないかと。どのようなコミュニケーションを取っているのか。</p> <p>○ コロナを経て、当たり前の世界が覆されている。学校で生徒が過ごす時間の意味や提供の仕方が変わってきている。不登校の生徒の対応などはどうしているのか。</p> <p>○ 遅刻指導の徹底について、企業では計画を立て達成できれば喜び、できなければ改善する。具体的な数値を挙げ、実行できている生徒へ羨望を集めるように意識的に仕向けても良いのではないかと。</p> <p>○ 計画は、PDCAサイクルを実行するためにある。良かったものはさらに伸ばし、悪かったものは改善するか止めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動様式に、変化が現れているように思われる。コロナ禍でも落ち着いた学校生活を送れているよう、生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切なアドバイスや指導を継続していきたい。 SNSによる誹謗中傷などの友人間トラブルが増えている。生徒の日常の行動や表情に目を配り、個別面談や声かけを行うなどして、トラブルの未然防止や早期解決に努めていきたい。 保護者の協力も得ながら、遅刻防止の徹底を図りたい。 交通安全の呼びかけも定期的に行い、交通事故の未然防止を図りたい。 今後も教職員間で共通理解を図り、生徒指導に努めていきたい。
		<p>活動計画</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施する。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施し、学校周辺の安全確保を図る。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図る。</p> <p>②-1 職員朝会において共通理解を図る。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応する。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有する。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努める。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。</p> <p>②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。</p> <p>③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ コロナ禍の2年間、空間を共有することを禁止され、リモート中心の学校生活となり、生徒とのコミュニケーションも取りにくいのではないかと。どのようなコミュニケーションを取っているのか。</p> <p>○ コロナを経て、当たり前の世界が覆されている。学校で生徒が過ごす時間の意味や提供の仕方が変わってきている。不登校の生徒の対応などはどうしているのか。</p> <p>○ 遅刻指導の徹底について、企業では計画を立て達成できれば喜び、できなければ改善する。具体的な数値を挙げ、実行できている生徒へ羨望を集めるように意識的に仕向けても良いのではないかと。</p> <p>○ 計画は、PDCAサイクルを実行するためにある。良かったものはさらに伸ばし、悪かったものは改善するか止めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動様式に、変化が現れているように思われる。コロナ禍でも落ち着いた学校生活を送れているよう、生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切なアドバイスや指導を継続していきたい。 SNSによる誹謗中傷などの友人間トラブルが増えている。生徒の日常の行動や表情に目を配り、個別面談や声かけを行うなどして、トラブルの未然防止や早期解決に努めていきたい。 保護者の協力も得ながら、遅刻防止の徹底を図りたい。 交通安全の呼びかけも定期的に行い、交通事故の未然防止を図りたい。 今後も教職員間で共通理解を図り、生徒指導に努めていきたい。 	
		<p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施する。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施し、学校周辺の安全確保を図る。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図る。</p> <p>②-1 職員朝会において共通理解を図る。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応する。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有する。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努める。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。</p> <p>②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。</p> <p>③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ コロナ禍の2年間、空間を共有することを禁止され、リモート中心の学校生活となり、生徒とのコミュニケーションも取りにくいのではないかと。どのようなコミュニケーションを取っているのか。</p> <p>○ コロナを経て、当たり前の世界が覆されている。学校で生徒が過ごす時間の意味や提供の仕方が変わってきている。不登校の生徒の対応などはどうしているのか。</p> <p>○ 遅刻指導の徹底について、企業では計画を立て達成できれば喜び、できなければ改善する。具体的な数値を挙げ、実行できている生徒へ羨望を集めるように意識的に仕向けても良いのではないかと。</p> <p>○ 計画は、PDCAサイクルを実行するためにある。良かったものはさらに伸ばし、悪かったものは改善するか止めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動様式に、変化が現れているように思われる。コロナ禍でも落ち着いた学校生活を送れているよう、生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切なアドバイスや指導を継続していきたい。 SNSによる誹謗中傷などの友人間トラブルが増えている。生徒の日常の行動や表情に目を配り、個別面談や声かけを行うなどして、トラブルの未然防止や早期解決に努めていきたい。 保護者の協力も得ながら、遅刻防止の徹底を図りたい。 交通安全の呼びかけも定期的に行い、交通事故の未然防止を図りたい。 今後も教職員間で共通理解を図り、生徒指導に努めていきたい。 	
		<p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施する。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施し、学校周辺の安全確保を図る。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図る。</p> <p>②-1 職員朝会において共通理解を図る。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応する。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有する。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努める。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。</p> <p>②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。</p> <p>③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ コロナ禍の2年間、空間を共有することを禁止され、リモート中心の学校生活となり、生徒とのコミュニケーションも取りにくいのではないかと。どのようなコミュニケーションを取っているのか。</p> <p>○ コロナを経て、当たり前の世界が覆されている。学校で生徒が過ごす時間の意味や提供の仕方が変わってきている。不登校の生徒の対応などはどうしているのか。</p> <p>○ 遅刻指導の徹底について、企業では計画を立て達成できれば喜び、できなければ改善する。具体的な数値を挙げ、実行できている生徒へ羨望を集めるように意識的に仕向けても良いのではないかと。</p> <p>○ 計画は、PDCAサイクルを実行するためにある。良かったものはさらに伸ばし、悪かったものは改善するか止めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動様式に、変化が現れているように思われる。コロナ禍でも落ち着いた学校生活を送れているよう、生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切なアドバイスや指導を継続していきたい。 SNSによる誹謗中傷などの友人間トラブルが増えている。生徒の日常の行動や表情に目を配り、個別面談や声かけを行うなどして、トラブルの未然防止や早期解決に努めていきたい。 保護者の協力も得ながら、遅刻防止の徹底を図りたい。 交通安全の呼びかけも定期的に行い、交通事故の未然防止を図りたい。 今後も教職員間で共通理解を図り、生徒指導に努めていきたい。 	

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
4 人権教育及び特別支援教育の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>① 人権尊重を基盤とする普遍的・個別的な視点に立ち、学校教育活動全体を通して人権教育を推進する。</p> <p>② 自他を大切に作る心や態度を育成する。</p> <p>③ 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 人権学習ホームルーム活動の充実</p> <p>② 人権啓発活動の充実</p> <p>③ 教育相談・特別支援教育の充実</p>	<p>①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上</p> <p>①-2 人権教育教職員研修の実施回数 年8回</p> <p>②-1 人権映画会の生徒の満足度 80%以上</p> <p>②-2 文化祭展示用ポスター・標語・書道作品を作成する。 1年生全員提出</p> <p>②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 年9回</p> <p>③-1 教育相談ケース会の実施回数 年1回 (必要に応じて適宜)</p> <p>③-2 心とからだの健康調査の活用 年3回</p> <p>③-3 特別支援教育研修会実施回数 年1回</p> <p>③-4 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 適宜</p> <p>③-5 障がい者雇用希望者への職場見学、就労体験の情報提供 適宜</p>	<p>①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 80.6%</p> <p>①-2 研修の実施5回</p> <p>②-1 人権映画会はコロナ禍の影響で実施せず。</p> <p>②-2 ポスター・標語・書道作品の作成 1年生全員提出</p> <p>②-3 人権の日の人権委員による啓発 10回実施</p> <p>③-1 教育相談ケース会の実施 要請がなく実施せず</p> <p>③-2 心とからだの健康調査の活用 学期に1度(3回)実施</p> <p>③-3 特別支援教育研修会 実施せず</p> <p>③-4 二者面談・三者面談での人権・相談課員への同席要請はなし。スクールカウンセラー活用事業により、カウンセラーの来校・相談日 18回</p> <p>③-5 職場見学、就労体験の情報提供の要請なし</p>	C	B (所見)	<p>○ 「人権」という言葉は、誰にとっても非常に重い。SNSでは「人権」という言葉を使ったために、炎上してしまった事例もある。今後も、学び続ける必要がある。</p> <p>○ 企業も従業員が公的なツイッターなどのSNSで、人権侵害をしてしまったら、解雇しなければならぬ事態に陥る可能性がある。世の中が敏感になっているという感覚を持つことができれば、生徒の真剣度も上がり、意識も変わるのではないか。</p> <p>・ 全校生徒が標語とホットメッセージに取り組んだ。ホットメッセージは1名が県入賞を果たした。ポスター・書道作品は標語とともに文化祭で展示し、その後渡り廊下に掲示し、啓発に役立てた。</p> <p>・ 「人権の日」の啓発活動は毎月実施。人権委員会で時々に応じた啓発文を準備している。朝のホームルーム活動で人権委員が啓発活動をしている。職員室でも同様の活動を実施しており、校内全体で人権について考えるよい機会になっている。</p> <p>・ スクールカウンセラー来校日が18日。生徒8名。</p> <p>・ 教職員7名・保護者3名、述べ51回実施。生徒だけでなく教員が生徒への対応のアドバイスをもらえることがあり、クラス運営に効果を発している。継続して相談しているケースもあり、来年度の継続実施が期待される。</p> <p>・ 心とからだの健康調査は、生徒の実態把握に役立っている。</p>	<p>・ 人権教育教職員研修会の実施がホームルーム活動の研修のみになってしまったことで、全教職員を対象としておらず、人権教育研修会に参加できなかった教職員も多かった。また、職員からは実施を望む声も聞かれたが、年間計画の中に実施日を入れられず、課題が残った。次年度は、オンラインでの実施も踏まえ、実施計画を年度当初に入れておきたい。また、以前研修を実施したときは、参加者が少なかったと聞く。必要とされる研修を十分にリサーチした上で開催したい。</p> <p>・ 人権問題は、年々新たなものが出現している。近年では、コロナウイルス関連の誹謗中傷・SNSによる問題があるが、今後、社会状況に応じてHR活動や人権の日の啓発ができるように対応したい。</p> <p>・ スクールカウンセラーの活用は、生徒・職員共に有効であることが確認できた。今後も引き続き、スクールカウンセラー活用事業が実施されることを期待する。</p>
		<p>①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図り人権ホームルーム活動内容を準備する。</p> <p>①-2 様々な人権課題について実態から学ぶ研修を実施する。</p> <p>②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。</p> <p>②-2 夏季休業中の人権学習課題として、生徒から啓発作品を募集する。</p> <p>②-3 「人権の日」の事前の人権委員会を開き、人権委員の研修を実施する。</p> <p>③-1 共通理解を図るため、教育相談ケース会を実施する。</p> <p>③-2 心とからだの健康調査を実施する。</p> <p>③-3 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。</p> <p>③-4 相談内容に応じて、関係機関との連携・相談を図る。</p> <p>③-5 地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼する。</p>	<p>①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動の事前研修会を各学年ごとに5回実施した。</p> <p>①-2 人権ホームルーム活動を行う時は、事前の研修会を実施している。SDGsについては学校教育活動全体で取り組んでいる。</p> <p>②-1 人権映画会はコロナウイルス感染症予防のため実施していない。</p> <p>②-2 募集した作品(ポスター)の一部を北館掲示板に展示。2階の渡り廊下には標語やホットメッセージを展示している。</p> <p>②-3 「人権の日」の事前の人権委員会を10回開き、人権委員の研修を実施した。</p> <p>③-1 スクールカウンセラーからの情報提供(生徒承諾のあった内容)や今後の対応の共通理解を図るため、必要に応じて教育相談ケース会を実施する予定。</p> <p>③-2 心とからだの健康調査を各学期に実施し、生徒の状況を把握して対応した。</p> <p>③-3 スクールカウンセラーとの連携を図り対応した。</p> <p>③-4 相談内容に応じては、関係機関との連携・相談に応じた。</p> <p>③-5 必要に応じて地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼し、今後も連携を図る。</p>	B			
			<p>活動計画</p> <p>①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動の事前研修会を各学年ごとに5回実施した。</p> <p>①-2 人権ホームルーム活動を行う時は、事前の研修会を実施している。SDGsについては学校教育活動全体で取り組んでいる。</p> <p>②-1 人権映画会はコロナウイルス感染症予防のため実施していない。</p> <p>②-2 募集した作品(ポスター)の一部を北館掲示板に展示。2階の渡り廊下には標語やホットメッセージを展示している。</p> <p>②-3 「人権の日」の事前の人権委員会を10回開き、人権委員の研修を実施した。</p> <p>③-1 スクールカウンセラーからの情報提供(生徒承諾のあった内容)や今後の対応の共通理解を図るため、必要に応じて教育相談ケース会を実施する予定。</p> <p>③-2 心とからだの健康調査を各学期に実施し、生徒の状況を把握して対応した。</p> <p>③-3 スクールカウンセラーとの連携を図り対応した。</p> <p>③-4 相談内容に応じては、関係機関との連携・相談に応じた。</p> <p>③-5 必要に応じて地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼し、今後も連携を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動の事前研修会を各学年ごとに5回実施した。</p> <p>①-2 人権ホームルーム活動を行う時は、事前の研修会を実施している。SDGsについては学校教育活動全体で取り組んでいる。</p> <p>②-1 人権映画会はコロナウイルス感染症予防のため実施していない。</p> <p>②-2 募集した作品(ポスター)の一部を北館掲示板に展示。2階の渡り廊下には標語やホットメッセージを展示している。</p> <p>②-3 「人権の日」の事前の人権委員会を10回開き、人権委員の研修を実施した。</p> <p>③-1 スクールカウンセラーからの情報提供(生徒承諾のあった内容)や今後の対応の共通理解を図るため、必要に応じて教育相談ケース会を実施する予定。</p> <p>③-2 心とからだの健康調査を各学期に実施し、生徒の状況を把握して対応した。</p> <p>③-3 スクールカウンセラーとの連携を図り対応した。</p> <p>③-4 相談内容に応じては、関係機関との連携・相談に応じた。</p> <p>③-5 必要に応じて地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼し、今後も連携を図る。</p>			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) ① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主的・実践的な態度を育成する。 ② 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 ③ 地域の環境整備など地域の活性化に貢献できる連携活動を推進する。 (下位組織レベル) ① 新学習指導要領に基づいたホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の活性化 ② 部活動及び農業クラブ活動の活性化並びに学校リーダーの育成 ③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	①-1 生徒会活動に対する満足度 70% ①-2 あいさつ運動実施 年10回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 70% ①-4 各種委員会の充実度 70% ①-5 学校祭の満足度 75%	①-1 生徒会活動満足度 80% ①-2 あいさつ運動実施 1回 ①-3 ホームルーム活動充実度 75% ①-4 各種委員会の充実度 75% ①-5 学校祭の満足度 80%	B	B (所見)	○ コロナ禍にあるので、部活動への入部者数が気になる。 ○ コロナ禍で様々な活動が制限され、生徒達も部活動とはこんなものなのかという意識になっていないか、心配である。 ・ 挨拶運動は、生徒会が中心となり複数回実施予定であったが、1度しか実施出来なかった。活躍の機会は少なかったが、日常生活においてクラスでも生徒会役員が様々な場面でリーダーとなり活躍した。 ・ 部活動入部率は、全体で90.9%と昨年とほぼ同率であった。経験者の技術の向上はもとより、初心者も続けて行けるよう魅力ある部活動にしていきたい。 ・ 商業科の競技会については、コロナ禍で十分な活動が出来ず、成果を上げることが出来なかった。今後も、商業関係の部活動の活性化を図るとともに商業関係科目への学習意欲の強い生徒をより増やしていきたい。 ・ 農業科については、農業クラブの発表において四国大会への出場を決めた。また、菊作りにおいても賞を受賞するなど成果を上げている。今後も本校独自の工夫を凝らし、指導を継続していきたい。	・ 挨拶運動はじめ生徒会の活動は、新型コロナの影響で制限されてしまったが生徒たちは、各方面で活躍していた。来年度こそ十分な活動が出来ることを願っている。 ・ 部活動委員会を年数回開催し、生徒の意見を多く吸い上げ部活動入部率を90%以上を継続してより活発な活動を促していきたい。 ・ 農業科・商業科ともコロナ禍で十分な活躍が出来なかったが来年度は、その活躍を期待している。
		②-1 部活動加入率 1年100%、2・3年70% ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) 全商主催各種競技会県予選 各大会 3位以内入賞 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会県予選において、最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート、フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞：1作品以上 県内入賞：5作品以上	②-1 部活動加入率 1年87.6%・2年80%・3年105% ②-2 各部主将・部長会 1回 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) 珠算・電卓競技会、ワープロ競技会、簿記コンクール、出場 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会県予選 最優秀賞：1名 全国高校生押し花コンテスト 福岡県教育委員会賞 西日本新聞社賞 第49回全国公募徳島県手工芸展 徳島県教育委員会教育長賞 学生の部 最優秀賞				
		③ 地域清掃を年に2回以上行う。	③ 地域清掃 1回	B			
		①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。	①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導をした。 ①-2 校門であいさつ運動は4月に1回実施。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を12月に実施した。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動に参加予定であったが実施されなかった。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を11月に開催した。	B			
②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り、入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。更に、各顧問等の指導により、アグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図ることで、入部率の向上を図った。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール、マナーの向上を指導した。 ②-3 コロナの影響でプロジェクト発表及び意見発表が数多く中止となった。						
③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員が行う。	③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員で行った。	B					

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価総括評価表

自己評価		学校関係者評価			学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) ① 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 ② 「新学校版環境ISO」承認取得校としての活動を推進する。 ③ 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。	①-1 防災に関する情報提供 年5回以上 ①-2 避難訓練 年3回実施 ①-3 防災クラブの活動 年5回以上 ①-4 保健だよりの発行 年8回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年3回	①-1 防災に関する情報提供 6回 ①-2 避難訓練 1回 ①-3 防災クラブの活動 1回 ①-4 保健だよりの発行 11月号までで7回 ①-5 各種講演会の実施 2回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 2回	B	B (所見)	○ 漏水の話が出たが、校舎も老朽化しており、先生方が負担に感じないようにしてもらいたい。 ○ 自然災害など様々な所で警戒レベルが上がっている。生徒だけではなく、自分の命は自分で守る行動を取れるよう、考えておかなければならない。	
		②-1 電気・水道の使用量が前年度を下回る。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 88%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 81%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 イオウ合剤の使用年1回以下	②-1 電気・水道使用量は、コロナ禍の影響で昨年4月～5月の休業で本年度は約1.5倍増加した。水道使用量は8月～12月まで漏水の影響で本年度は約20%～50%の使用量となった。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 86% ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 68.2% ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減を実施した。イオウ合剤の使用 1回				C
		③-1 食育通信の発行 年1回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	③-1 食育通信の発行 1回 ③-2 食育関連講習会の実施 0回				
(下位組織レベル) ① 防災教育の充実及び自己の健康管理能力の育成 ② 節電・節水・ゴミの分別を行い、校内美化および適正な農薬散布の徹底 ③ 食育の実施	活動計画 ①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認及び防災講演会を実施する。 ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。 ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施する。 ①-6 保護者に健診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。	活動計画の実施状況 ①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供した。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認を1回行った。防災講演会はコロナ禍で実施していない。 ①-3 学校内外における活動内容の報告を予定中。 ①-4 保健だよりを発行した。 ①-5 歯科保健指導等を実施した。 ①-6 保護者に検診結果を通知した。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握に努めた。	B	・ 昨年に引き続きCOVID-19感染症の安全対策（マスク着用、手洗い、うがい）を徹底した。 ・ 教室や廊下などに啓発ポスターの掲示、手指消毒液ボトルの設置や全校集会での呼びかけ等を行った。 ・ 水道使用量は、昨年度の休業期間中（4月～5月）の使用量が少なかったため、今年度は150%の増加となった。 ・ 電気使用量では2～15ポイントの増加が見られた。本年度9月より教室のエアコンを新調したクラスがあるため、9月は減少も見られたが、感染症防止対策の一環として換気を行っており、使用量は増加傾向にある。 ・ 校内での生活環境を整えるため、生徒への啓発や清掃の進め方を見直し、より良い環境で過ごせるようになった。 ・ 避難訓練はコロナ禍のため、消防署参加の指導は取り止めた。12月に感染症対策をした上で、学校単独での避難訓練及び消火訓練を全員参加で実施した。 ・ イオウ合剤は果樹の休眠期における病虫害防除のため、用法を守り1回使用した。			
②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。	②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行った。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行った。状況等についてのアンケート調査を行う予定である。 ②-4 適正な農薬散布を徹底した。						
③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 PTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行った。 ③-2 PTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、啓発プリントを配布した。						

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成